



ドクターTのひとりごと その59

日本の医療環境の変遷 その3

広報まいづる5月号で、1976年頃から診療科の細分化と専門性重視の進展が絶対的な医師不足を引き起こす端緒となったこと、6月号では、2004年から新卒後臨床研修制度が導入され大都会に医師が集まりやすい地域偏在を引き起こし、また、さらなる専門性重視を推進し、ますます医師不足を加速させたことを説明した。今月号で日本の医療環境の変遷のまとめとする。近年、患者が自分の意にそぐわない治療結果となったときに、医療訴訟となるケースが散見される。こうした状況から、訴訟リスクの高い診療科や夜間に緊急に呼び出される診療科、さらには拘束時間が長く肉体的に厳しい診療科などは敬遠されることで、診療科ごとに医師の偏在が起ることも絶対的な医師不足に拍車をかけている。また、私が医師免許を取得した1976年頃の女性医師の割合は10%弱であったが、近年は35%強と増加している。女性比率の増加は、診療科偏在とワークライフバランスの理解が不十分な中で相対的な医師不足を引き起こしている。さらに、平成30年度からスタート予定の新専門医制度において、大学病院や都会の大病院に若手医師が専門医取得のために集まることが予想される。今後、専門医研修ができない地方都市の小さな病院において、医師不足が深刻化し、大きな社会問題になることが予想される。



図書館だより

今月のおすすめ本

るぶクルーズのすべて JTBパブリッシング

「クルーズの旅、憧れるけど、少し心配」という人に、初めてでも安心してクルーズを満喫できるコツが紹介されています。グルメ、カジノなどのエンターテインメント情報も満載。ワンナイトクルーズから世界一周まで、見るだけでもワクワクします。(西)



深読み! 絵本『せいめいのれきし』 真鍋 真

地球誕生から現在までの壮大な命のリレーを劇場仕立てで物語る名作絵本『せいめいのれきし』。その改訂版を監修した恐竜博士が、絵本に盛り込めなかった最新の知見を本書でたっぷり解説しています。隅々にまで描かれたしかけなど気が付かなかった発見もあり、より深く絵本を楽しめます。(東)



▶詳しくは、東図書館 (☎62・0190) 西図書館 (☎75・5406) へ。

あなたは配偶者のことをなんと呼んでいますか

6月23日～29日は「男女共同参画週間」でした。今年度は「男で〇、女で〇、共同作業で◎。」というキャッチフレーズのもとに、各地でさまざまな意識啓発の取り組みが行われました。

市でも、「女と男、自分らしく輝ける未来を」と題して、テレビやラジオでコメンテーターとして活躍中の谷口真由美さんの講演会がありました。その谷口さんの著書の中に興味深いものがあります。ある女性からの「パートに出たいのですが、“主人”に『お前なんか無理』と言われてしまいました。私には、自分の人生を自分で決める権利はないのでしょうか?」という質問に、次のように答えています。



「オレの稼ぎに不満を言うな」「お前には仕事なんか無理」と言うのもDV(精神的暴力)、外に出ようとする妻を閉じ込めたりするのもDV(社会的暴力)です。また、妻が収入を得ようとするのを妨害するのもDV(経済的暴力)です。経済的な自立は自信につながりますし、精神的な自立にもつながります。いざという時のためにも、女性も働いて自分で使

るお金を持っておくことが大切です。あなたがパートに出たいのなら、出しましょう。出たらええんです。まずは「主人」という言葉をやめてみませんか。その言葉そのものが、無意識のうちに「主」と「従」の関係を生み出しているかもしれません。

(谷口真由美著『憲法ってどこにあるの?』集英社、2016年)

法学者でもある谷口さんは、憲法第14条「すべて国民は法の下に平等であつて……」と憲法第24条「婚姻は、両性の合意のみに基づいて成立し、夫婦が同等の権利を有すること……」を根拠に、婚姻関係に「主」と「従」はありませんと明言しています。

わが国では「男は仕事、女は家事・育児」という性別役割分担意識から来る主従関係がDVを生む土壌にもなっているのではないかとされています。「配偶者を“主人”と呼ぶのをやめてみては?」との谷口さんの提案をあなたならどのように受け止められますか。

《人権啓発推進室》

DV…配偶者や恋人など親密な関係にある男女間でふるわれる暴力のこと



あなたの笑顔のために - 舞鶴市民病院 理念 -

《ロコモティブシンドロームをご存知ですか?》

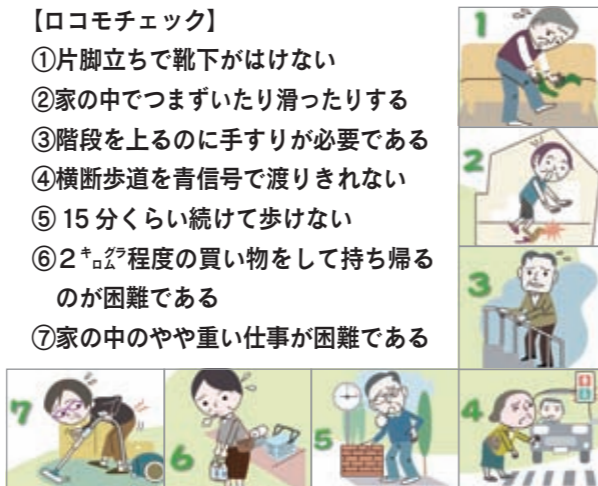
“ロコモティブシンドローム”(運動器症候群:略称「ロコモ」という言葉をご存知でしょうか。2007年に日本整形外科学会が提唱した概念で骨、関節、筋肉など運動器の機能が低下し、介護が必要になるリスクが高い状態を指します。今や「メタボリックシンドローム:略称メタボ」は有名ですが、「ロコモ」はまだまだ知られていません。メタボは内臓の病気で、心臓病や脳血管障害などを招くのに対し、「ロコモ」は運動器の不具合であり、立つ、歩く、走るなどに関係する、より身近なものです。いつまでも自分の足で歩き続けていくために、運動器を長持ちさせることが大切なのです。

「ロコモ」は徐々に進行していくことから自分で気付くにくく、老化と思って重要視されません。そのため日常からチェックをすることが重要です。簡単で分かりやすい7つのチェック項目があり、1つで

も当てはまれば、「ロコモ」の心配があります。該当なしを目指してトレーニングを始めてみませんか? 具体的なトレーニング方法については、8月号でお知らせします。 《舞鶴市民病院 院長 井上重洋》

【ロコモチェック】

- ①片脚立ちで靴下をはけない
- ②家の中でつまずいたり滑ったりする
- ③階段を上るのに手すりが必要である
- ④横断歩道を青信号で渡りきれない
- ⑤15分くらい続けて歩けない
- ⑥2kg程度の買い物をして持ち帰るのが困難である
- ⑦家の中のやや重い仕事が困難である

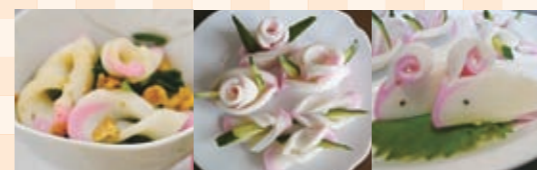


特許庁の地域団体商標である「舞鶴かまぼこ」は、舞鶴の近海で取れた魚をすぐにすり身にして、それを4割以上使用しています。その日のうちに出荷される全国でも珍しいかまぼこです。今回はかまぼこそのものの味を生かし、暑い夏にぴったりの梅肉と大葉が爽やかな一品です。

【協力】谷口久美子(食生活指導士)

材料 4人分

- ◆かまぼこ…1枚
- ◆梅干し…2個
- ◆青じそ…6枚
- ◆はちみつ…小さじ1



▲バリエーションもたくさん

かまぼこの梅肉青じそはさみ



1人分 54kcal 塩分2.1g

作り方

- ①種を取った梅干しとはちみつを混ぜ包丁で細かくたたいて梅肉を作る。
- ②かまぼこは12切れ(約1cm幅)に切り、それぞれ3分の2ぐらいまで切れ込みを入れる。
- ③軸を切った青じそを縦に半分に切り、梅肉を塗ってかまぼこの切れ込みにはさんで器に盛る。

一言メモ

「飾り切り」をすればパーティーやおせちにもぴったりです。